令和6年度実施事業における
点検・評価 報告書

令和7年10月

四條畷市教育委員会

目　　次

ページ

四條畷市教育委員会の取組 …… 1

1 事務の点検・評価について

（1）点検・評価の趣旨 …… 2
（2）点検・評価の対象 …… 2
（3）点検・評価の実施方法 …… 2
（4）点検評価シートの見かた …… 3

2 教育委員会の活動状況

（1）教育委員 …… 5
（2）教育委員会の役割 …… 5
（3）教育委員会の開催状況 …… 6
（4）教育委員の主な研修及び活動
① 教育委員 …… 9
② 教育長 …… 10
教育委員会組織図（令和6年4月1日現在） …… 11

3 点検評価シート

基本方針 1【主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進】
確かな学力の育成 …… 13
豊かな心の醸成 …… 15
健やかな体の育成 …… 17

基本方針 2【個を認め、寄り添い、活かす教育の推進】
ライフステージに応じた継続的な支援の充実 …… 19
多様なニーズに即した教育の提供 …… 21

基本方針３【地域の教育コミュニティづくりへの支援】
家庭・地域・学校の連携、協働の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

基本方針４【豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援】
生涯を通じた学習活動の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
生涯を豊かにする文化芸術・スポーツ活動の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

基本方針５【学びを支える教育環境の整備】
安心・安全な施設等の段階的整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
持続的で魅力ある学校教育の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

基本方針６【学びを支える教育体制の整備】
教職員の資質能力の向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
持続可能な指導体制の整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
ICT 利活用のための基盤整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

令和6年度実施事業における点検評価総評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

四條畷市教育委員会の取組

私たちを取り巻く社会は、人生100年時代の到来、超スマート社会（Society5.0）の実現に向けた急速な技術革新、大規模災害や感染症の世界的大流行（パンデミック）といった未曾有の事態への対峙など、大きな転換期を迎えています。

このような中、国においては、令和5年6月に第4期教育振興基本計画が定められ、「2040年の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という2つをコンセプトが示されました。これに基づき、両者の相互循環的な実現に向けた取組が進められるよう教育政策を講じていく必要があるとされています。

そして、この間も、学校のICT環境の整備、教員の働き方改革の進展、いじめや不登校事案の増加等教育を取り巻く環境や社会情勢は絶えず変化してきています。

本市においても、将来を見据えた教育の長期的な展望を示し、本市が進むべき方向性を定めることを目的として、令和4年1月に教育振興基本計画を定め、計画に基づく各種の取組を進めています。

また、教育委員会と市長部局はそれぞれの役割を理解しつつ、各分野における関連施策等を通じた相互連携、相互補完が重要であるとの認識から、それぞれに歩調を合わせ、関連施策の連携を図りながら教育施策を推進しています。

四條畷市教育振興基本計画

みんなの学びが叶うまち

～ 生涯 学び 夢 挑戦 ～

今後も独立した執行機関として、政治的中立性、継続性、安定性を確保し、教育行政における多様な民意を反映させるとともに、教育長及び事務局が執行する事務の評価点検という役割を担いつつ、本市教育の更なる推進に取り組んでまいります。

1 事務の点検・評価について

（1）点検・評価の趣旨

① 教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進を図ります。

② 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市民への説明責任を果たすため、議会に提出するとともに公表します。

（参考法令）地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（2）点検・評価の対象

「教育振興基本計画」（※）に基づき推進する施策や事業を対象に点検・評価を行います。

（※）「教育振興基本計画」 参考資料

令和4（2022）年度から令和17（2035）年度までを計画期間に定め、将来を見据えた教育の展望を示し、本市が進むべき方向性を定めたもの。教育基本法第17条第2項に規定する計画として位置付けています。

（3）点検・評価の実施方法

① 本市の点検・評価は、教育委員会が掲げる教育の理念や目標と、各課が実施する事業との関連性を示すため、教育の総合的な計画に位置付ける教育振興基本計画の体系に基づき実施します。

② 点検・評価にあたり、客観性を確保するため、学識経験を有する方にも会議に出席いただき、そのご意見を参考とします。

【学識経験者】

・大阪常磐会大学 こども教育学部 准教授 中村 哲也 氏

・京都女子大学 発達教育学部 教育学科 教授 岩槻 知也 氏

（4）点検評価シートの見かた

① 基本方針、施策及び施策の方向性

教育振興基本計画に掲げる基本方針、施策及び施策の方向性を記載

② 分野別計画等

関連する分野別計画等を記載

③ 取組実績

令和6年度に実施した施策の方向性や事業とその概要、指標、実績等を記載

④ 評価（※）

令和6年度施策や事業について、4段階で全体評価を行い、先進性及び創意工夫の要素を加えた評価を記載

⑤ 振返りと評価の説明

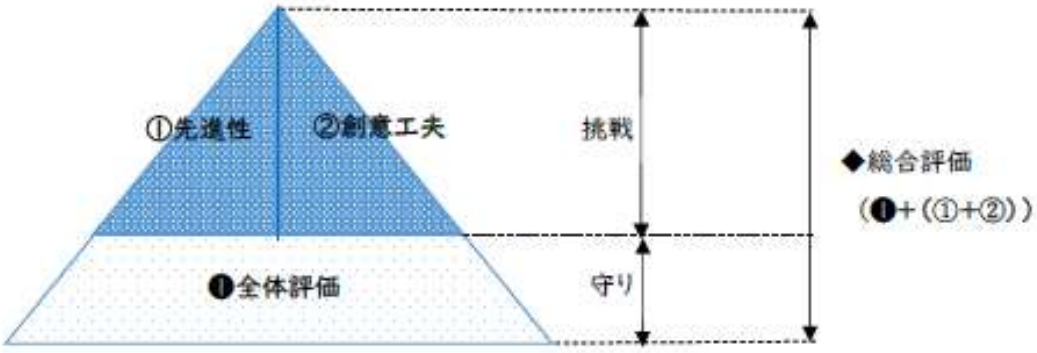
令和6年度施策や事業の振返りと評価の理由について記載

⑥ 今後の課題や方針

令和6年度施策や事業の振返りと評価を踏まえた今後の課題と方針を記載

【※評価の方法】

施策に関する評価



❶全体評価

基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか

評価	順調	概ね順調	やや課題あり	課題あり
点数	4点	3点	2点	1点

①先進性

国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか

評価	躍進的	前進	なし
加点	+2点	+1点	なし

②創意工夫

市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか

評価	躍進的	前進	なし
加点	+2点	+1点	なし

◆上記の全体評価に先進性、創意工夫を加点した総合評価(❶+(①+②))

総合評価	S	A	B	C
合計点	8点	5点～7点	2点～4点	1点

2 教育委員会の活動状況

（1）教育委員

（令和6年度）

役　職　名	氏　　名
教　　育　　長	植　田　　篤　司（～R6.4.15） （不　在）（R6.4.16～R7.3.31）
教育長職務代理者	山　本　　博　資
委　　員	佃　　千　　春
委　　員	河　　田　　文（～R6.10.11） 佐　々 木　弥　生（R6.10.12～）
委　　員	尾　﨑　　靖　二

（2）教育委員会の役割

平成27年4月1日から施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正による新教育委員会制度では、地方教育行政における首長の責任がより明確になることによって、首長のもとで教育施策を進める体制となりました。それにより、教育長の任免、教育に関する大綱の作成、総合教育会議における協議などが行われています。

法改正により、教育行政の責任者としての教育長のリーダーシップが高まりますが、教育長以外の非常勤の委員で構成する教育委員会において、意思決定を多数決で行う仕組みは引き続いており、今後も教育委員会は、合議制の執行機関として、教育の政治的中立性、継続性、安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価、監視という重要な役割を担います。

（3） 教育委員会の開催状況

原則として、毎月１回「教育委員会定例会」を開催するとともに、必要に応じ、「臨時会」を開催しています。

開催年月日	案件名	議決等
令和 6年 4月15日 （臨時会）	四條畷市教育委員会教育長の辞職の同意について	可　決
令和 6年 4月24日 （定例会）	四條畷市立学校教科用図書選定委員会委員の委嘱について	可　決
	四條畷市立学校教科用図書選定委員会への諮問について	可　決
	四條畷市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
	四條畷市立学校夏季休業日における学校閉庁日の実施について	報　告
	学校運営協議会委員の任命について	報　告
	四條畷市スポーツ推進委員の委嘱について	報　告
	四條畷市青少年指導員の委嘱について	報　告
令和 6年 5月29日 （定例会）	四條畷市社会教育委員の委嘱について	可　決
	四條畷市立公民館運営審議会委員の委嘱について	可　決
	四條畷市立小学校及び中学校における教育指導の計画について	報　告
	四條畷市立学校結核対策検討委員会委員の委嘱について	報　告
	史跡飯盛城跡保存活用計画の策定について	報　告
	四條畷市飯盛城跡の調査研究に関する専門委員会委員の委嘱について	報　告
令和 6年 6月26日 （定例会）	付議案件なし	―
令和 6年 7月25日 （定例会）	令和7年度使用四條畷市立小学校教科用図書の採択について	可　決

開催年月日	案　　件　　名	議決等
令和 6年 7月25日 （定例会）	令和7年度使用四條畷市立中学校教科用図書の採択について	可　決
	令和6年度教育委員会事務局職員人事について	報　告
令和 6年 8月28日 （定例会）	いじめ重大事態調査について	可　決
	令和6年度一般会計補正予算（第5号）に対する意見の申し出について	報　告
令和 6年 9月25日 （定例会）	四條畷市立学校における学校閉庁日の期間延長等について	可　決
	四條畷市市民総合センターの管理・運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
令和 6年10月30日 （定例会）	令和5年度四條畷市教育委員会点検・評価について	可　決
	四條畷市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
	令和7年度当初予算要求に盛り込む主要な施策及び事業について	可　決
	四條畷市学校施設整備方針（令和6年12月改訂版）（原案）の策定について	報　告
	学校運営協議会委員の任命について	報　告
	社会教育施設の管理運営に関する評価結果（令和5年度分）について	報　告
令和 6年11月20日 （定例会）	いじめ重大事態調査について	可　決
	四條畷市立野外活動センター施設・設備等修繕計画の策定について	可　決
	四條畷市体育施設の施設・設備等修繕計画の策定について	可　決
	四條畷市立図書館の管理・運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
	令和6年度四條畷市スポーツ・文化奨励賞の受賞者について	報　告
令和 6年12月25日 （定例会）	四條畷市学校施設整備方針（令和6年12月改訂版）の策定について	可　決
	いじめ重大事態調査について	可　決

開催年月日	案　　件　　名	議決等
令和 6年12月25日 （定例会）	四條畷市子ども・若者育成支援行動計画（第2期）中間見直し（原案）の策定について	報　告
	四條畷市文化財保護審議会委員の委嘱について	報　告
	令和6年度一般会計補正予算（第9号）に対する意見の申し出について	報　告
令和 7年 1月15日 （定例会）	公立学校情報機器等整備事業に係る各種計画の策定について	可　決
	四條畷市文化財保存活用地域計画協議会条例の制定に対する意見の申し出について	可　決
	令和7年度全国学力・学習状況調査の参加及び協力について	報　告
令和 7年 2月 5日 （定例会）	まなびのプランの改訂について	継続審査
	史跡飯盛城跡整備基本計画の策定について	可　決
	四條畷市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例の施行に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
	令和7年度教育委員会事務局職員人事の臨時代理について	可　決
	令和7年度一般会計予算に対する意見の申し出について	可　決
	令和7年度学校管理職人事の内申について	可　決
令和 7年 2月10日 （臨時会）	令和7年度学校管理職人事の内申について	可　決
令和 7年 3月26日 （定例会）	まなびのプランの改訂について（令和7年2月定例会からの継続）	可　決
	四條畷市いじめ防止基本方針の改訂について	継続審査
	四條畷市子ども・若者育成支援行動計画（第2期）中間見直しの策定について	可　決
	令和6年度一般会計補正予算（第11号）に対する意見の申し出について	報　告
	令和7年度教育委員会事務局職員人事について	報　告

（4） 教育委員の主な研修及び活動

① 教育委員

- 令和 6年 5月17日　令和6年度四條畷市教育委員会研修（大東市立住道南小学校）
- 令和 6年 5月22日　令和6年度大阪府都市教育委員会連絡協議会定期総会に参加
- 令和 6年 7月 5日　令和6年度四條畷市教育委員会研修（泉大津市立条東小学校、条南小学校）
- 令和 6年 8月23日　令和6年度北河内地区教育長協議会研修会（交野市）に参加
- 令和 6年 9月 6日　令和6年度北河内地区教育長協議会研修会（守口市）（オンライン）に参加
- 令和 6年 9月13日　令和6年度市町村教育委員会研究協議会に参加
- 令和 6年10月 5日～10月19日　小学校運動会、中学校体育大会に出席
- 令和 6年10月31日　令和6年度北河内地区教育委員会委員研修会に参加
- 令和 6年11月11日　令和6年度四條畷市教育委員会研修（木津川市立相楽小学校）
- 令和 6年11月13日　令和6年度近畿市町村教育委員会連絡協議会（オンライン）に参加
- 令和 7年 1月27日　令和6年度大阪府市町村教育委員会研修会に参加
- 令和 7年 3月14日・ 3月18日　令和6年度小中学校卒業式に出席

② 教育長

※教育長不在のため、教育長職務代理者及び学校教育部長他事務局職員による代理出席

- 令和 6年 4月12日　令和6年度大阪府都市教育長協議会総会・4月定例会に参加
- 令和 6年 4月16日　令和6年度第1回北河内地区教育長協議会及び北河内地区人事協議会に参加
- 令和 6年 5月 7日　大阪府都市教育委員会連絡協議会令和5年度第3回及び令和6年度第1回役員会（オンライン）に出席
- 令和 6年 5月17日　令和6年度四條畷市教育委員会研修（大東市立住道南小学校）
- 令和 6年 5月22日　令和6年度大阪府都市教育委員会連絡協議会定期総会に出席
- 令和 6年 7月 4日　令和6年度第2回北河内地区教育長協議会及び北河内地区人事協議会に参加
- 令和 6年 7月 5日　令和6年度四條畷市教育委員会研修（泉大津市立条東小学校、条南小学校）
- 令和 6年 7月 5日　令和6年度大阪府都市教育長協議会7月定例会に参加
- 令和 6年 7月10日　万博に関する現地説明会に参加
- 令和 6年 7月26日　令和6年度大阪府都市教育長協議会夏季研修会に参加
- 令和 6年 8月16日　令和6年度大阪府都市教育長協議会8月定例会に参加
- 令和 6年10月 4日　令和6年度大阪府都市教育長協議会10月定例会に参加
- 令和 6年10月31日　令和6年度北河内地区教育委員会委員研修会に参加
- 令和 6年11月 8日　令和6年度大阪府都市教育長協議会秋季研修会に参加
- 令和 6年11月11日　令和6年度四條畷市教育委員会研修（木津川市立相楽小学校）
- 令和 7年 1月13日　令和7年二十歳の集いに出席
- 令和 7年 1月21日　令和6年度第3回北河内地区教育長協議会及び北河内地区人事協議会に参加
- 令和 7年 1月24日　令和6年度大阪府都市教育長協議会1月定例会に参加
- 令和 7年 3月14日　令和6年度田原中学校卒業式に出席

その他　市及び社会教育団体等主催のイベントに出席

教育委員会事務局組織図（令和6年4月1日現在）

- 教育長
  - 学校教育部
    - 教育総務課
    - 学校教育課
    - 学校給食センター
    - 教育支援センター
  - 社会教育部
    - スポーツ・青少年課
    - 文化財課
    - 文化・公民館振興課
    - 図書館
      - 田原図書館
  - 市立学校
    - 田原小学校
    - 四條畷小学校
    - 四條畷南小学校
    - 忍ケ丘小学校
    - 岡部小学校
    - くすのき小学校
    - 四條畷中学校
    - 四條畷西中学校
    - 田原中学校

点 検 評 価 シ ー ト

基本方針	Ⅰ	主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進

施策	確かな学力の育成

◇施策の方向性

①就学前教育について、乳幼児期から小中学校の教育へ、縦の連携による円滑な接続を図るため、小中学校との相互理解を深めるとともに、連携の推進に努めます。
②わかりやすく、深まる授業の実現と学びの保障を趣旨とした教員研修を重ね、児童生徒の情報活用能力の育成や習熟度に応じた学習支援の強化に取り組みます。
③カリキュラム・マネジメントに努め、教育活動の質の向上を図ります。
④ICT利活用計画に基づき、1人1台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざします。
⑤子どもたちの読書環境を整備し、読書習慣の定着を図ります。また、学校と市立図書館が連携のもと、学校図書館の活性化にあたり、読書活動の効果的な推進を図ります。
⑥早期から本物の英語に慣れ親しむ機会を設け、身近な事柄について外国語を使って表現できるコミュニケーション能力の育成を図ります。

◇分野別計画等

乳幼児教育保育アクションプラン/ 第2期子ども・子育て支援事業計画/ まなびのプラン/ 市立小中学校におけるICT利活用計画
第4次子ども読書活動推進計画

▼令和6年度の取組実績▼

Ⅰ	事業名	教員の指導力向上推進事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
	事業概要	学力向上対策コーディネーター配置、学力向上担当者会開催、全国標準学力検査（NRT（※））を実施した。 ※NRT（標準学力検査）：学習指導要領に示された目標に対する学校及び児童生徒の到達度を調査し、上級学年への教育に円滑につなげる指標を得るとともに、本市の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目標として、実施している学力検査		
	活動実績	・学力向上対策コーディネーターを配置し、調査分析、各校の好事例の収集、市や各校の学力向上の取組のホームページ発信、市の学力向上の取組のPDCAを推進 ・市の学力向上の重点目標達成のため、学力向上担当者会を年間5回（学校公開含む）開催 ・全国標準学力検査（NRT）結果から、各小中学校が自校の取組を分析検証し、授業改善を推進		
	指標	全国平均正答率を1とした時の割合 ※国語、算数（数学）	出典	全国学力・学習状況調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績		小:86.8 中:91.4	小:89.7 中:82.4	小:87.3 中:97.5	小:87.6 中:81.8
目標（※）			95.0	96.0	96.0

2	事業名	英語教育推進事務（学校教育課）	施策の方向性番号	⑥
	事業概要	市全体で英語教育を推進しているなか、英語に興味を持ち、目標をもってチャレンジする子どもへの支援として、各種受検者用の補助を行った。		
	活動実績	・小学校第6学年 …「GTEC（※） Junior2」受検料を全額補助（年1回） ・中学校第2学年 …「GTEC（※） Core」受検料を全額補助（年1回） ・中学校第3学年 …「実用英語技能検定（英検）」受検料を全額補助（3級以上を受検した3年生に対し年1回） ※GTEC：小学生から社会人までの方が英語力（「読む・書く・話す・聞く」の4技能）を測定できるスコア型英語検定試験		

◆英語技能検定公費負担数（3級以上を受検した中学校第3学年の人数）（人）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	173	136	175	162	117

3	事業名	学校図書館支援事務（図書館）	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	市内小中学校に市立図書館からの職員派遣を行い、学校図書館の活性化を図った。 （図書室の開室、図書の時間のサポート、図書室内整理・飾付、図書整理、購入図書選書サポートなど）		
	活動実績	・小中学校全9校に職員を派遣 【支援日】学期中の火～金曜日（開校日）1日あたり小学校は5時間以内、中学校は4時間以内		
	指標	学校図書館図書貸出数	出典	学校図書館システム統計

◆年間開室日数（小中学校計）（日）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	1,006	1,196	1,269	1,319	1,377

（冊）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	89,048	98,033	97,157	102,824	97,123

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

【学校教育の分野】

確かな学力の育成に向けて、各種担当者会を開催し、市の重点と各校の取組を重ね合わせながら、好事例の共有を図ることができた。また、各種調査結果を活用し、学力向上に向けた学校の取組を検証・改善するというPDCAサイクルが確立できている。

現在求められている情報活用能力の向上に向け、「情報活用スキルカリキュラム表」の作成に取り組むなど、一定の先進的な実践も行われた。

【図書の分野】

子どもたちの読書習慣の定着を図るため、第4次子ども読書活動推進計画（令和6年3月改訂）の中、重点施策に位置づける学校図書館支援について、令和6年度は、前年度に引き続き、小中学校全校へ職員を派遣のもと、週1回の読み聞かせ、図書館からの本の貸し出し、蔵書の管理等、種々の取組を行い、開室日数は前年度を上回る日数となった。

●総括●

確かな学力の育成に向けて、PDCAサイクルが確立し、各校で学力向上に向けた取組を共有することができた。市立図書館からの人的支援は、他市事例が少ないことから先進性を有すると考えられるとともに、近年、多忙さが課題となっている教職員の事務省力化に資すると考えられることから効率的な取組でもあると判断できるが、貸出冊数が減少したことから、全体評価としては概ね順調にとどめた。

◇今後の課題や方針

【学校教育の分野】

国や府による各種調査の結果を、学校現場の意見を踏まえながら、より効果的に活用していく方策の検討が求められる。また、府の研修や他市町村における研修体制の好事例を参考にしながら、教員が主体的に学び続けられるような研修体制や仕組みづくりの推進が必要である。

英語に関心をもち、明確な目標をもってチャレンジする児童生徒への支援として、各種英語検定に対する補助を行うだけでなく、その結果を授業改善に活かしていく視点が重要である。今後は、英語教育担当者連絡会を通じて、こうした成果を共有しながら、市全体として英語教育の一層の推進を図っていく。

【図書の分野】

小中学校全9校の支援となると、一定数の人員が必要となることから、毎年、その確保が課題となっている。また、上昇傾向であった貸出冊数が令和6年度は減少したことから、要因の究明が必要である。

基本方針	Ⅰ	主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進

施策	豊かな心の醸成

◇施策の方向性

①一人ひとりを大切にする人権教育、教育活動全体を通した道徳教育、地域にねざした郷土教育を通じ、豊かな心を育みます。
②子どもの実態把握に努め、いじめ防止に取り組みます。また、事案が起きた際は、保護者、学校、関係諸機関と連携のもと対応します。
③キャリア教育のなか、社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成します。

◇分野別計画等

乳幼児教育保育アクションプラン/ 第2期子ども・子育て支援事業計画/ 第4次子ども読書活動推進計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	人権教育の研修に関する事務（学校教育課）	施策の方向性番号	①
事業概要	各校における人権教育の充実のために、研修を行った。		
活動実績	・大阪府教育センターにおける研修へ教職員が参加 ・市内小中学校の人権教育の校内研修及び児童生徒、保護者の学習会及び講演会などを実施 ・大阪府や各市の人権教育関係研究発表校の案内を各学校に送付し、研修参加を奨励		

◆各校で実施した外部講師を招へいした人権教育研修実績　（校）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	4	6	6	5	6

2

事業名	教育相談コーディネーター育成研修（教育支援センター）	施策の方向性番号	②
事業概要	各校の管理職とコーディネーター教員を集め年間3回の研修会を実施した。		
活動実績	・学校のケース会議（子どもの支援プランを検討する会議）をどのように運営するのか、コーディネーター教員の実践共有を通して、自校にてより良いコーディネートができるよう研修を実施 ・スクールロイヤーを招へいし、いじめ防止対策推進法の理解を深めるための研修を実施 ・生徒支援について知見を深めるため、独立行政法人教職員支援機構主催「生徒指導基幹研修」に参加した市内教員を講師として招へいし、研修を実施		

◆いじめの認知件数　（件）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	小639 中174	小875 中153	小828 中164	小1,031 中153	小942 中214

3

事業名	郷土教育及びキャリア教育（学校教育課）	施策の方向性番号	③
事業概要	郷土教育副読本作成事務及びキャリア教育担当者会を開催した。		
活動実績	・各小学校の担当による郷土教育副読本推進委員会を年3回開催 ・キャリア教育担当者会を年2回開催		

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

人権教育研修では、同一中学校区の教職員が同じ方向性をもって解決に向かうべく、学識や心理士など中学校区の児童生徒の実態から講師を招へいし、小中合同研修を実施した校区があったことから創意工夫は前進とした。

いじめ未然防止の観点から弁護士（スクールロイヤー）を講師として招へいし、いじめ予防授業を実施できた。他自治体と比較しても先進的な取組であったことから先進性を前進とした。

小中9年間一貫した視点で子どもたちのキャリア形成ができるように、中学校区内での「めざす子ども像」を共有する取組を進め、キャリアパスポートの内容の共有を図るなど、キャリア教育の推進に努めた。

また、郷土教育の中で地域の産業について学ぶ機会をつくり、子どもたちのキャリア形成を促した。

●総括●

各事業が滞りなく順調に進捗しているため、全体評価は概ね順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◇今後の課題や方針

研修で学んできたことを各校で共有し合える場を設け、ひとりの学びから全体の学びへとつなげていけるようにする必要がある。

いじめの認知件数については、積極的な認知が進んでいると捉えている。今後、未然防止教育の推進が求められる。

また、郷土教育においては、副読本作成が活動の中心となっているので、今後はキャリア教育との関連性を持たせ、探求心につながるようにする必要がある。

基本方針	Ⅰ	主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進

施策	健やかな体の育成

◇施策の方向性

①各校で策定する体力づくりアクションプランに基づき、体力向上の取組、健康に関する指導、食育の推進等のさらなる充実をめざします。
②学校給食を通じ、学校、地域、家庭の連携により、食の重要性を学ぶ食育を推進します。
③学校給食に地場産食材を積極的に取り入れます。

◇分野別計画等

第4次食育推進計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査や基礎体力調査、泳力調査等の実施（学校教育課）	施策の方向性番号	①
事業概要	各種調査を行うとともに、その結果を分析することで、各校の体力向上につなげた。		
活動実績	・体育主担者会を定期的に実施し、各種調査の結果をもとに本市の成果と課題を分析 ・好事例や具体的な実践を発信・普及		
指標	質問「運動が好きですか」で「好き」（4段階中の最肯定）と答えた児童生徒の割合	出典	全国体力・運動能力、運動習慣等調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	調査なし	小5男70.7 小5女54.2 中2男58.6 中2女44.1	小5男65.9 小5女53.5 中2男69.0 中2女50.2	小5男80.1 小5女52.9 中2男67.3 中2女38.5	小5男72.3 小5女45.9 中2男69.6 中2女48.9

2

事業名	食の重要性を学ぶ食育を推進する（学校教育課）	施策の方向性番号	②
事業概要	学校生活における給食への理解を深めるとともに、食の大切さを学ぶため学校給食センターの見学や食育授業を実施した。		
活動実績	・学校給食センター見学：田原小学校1年生2クラス、四條畷小学校1年生3クラス、四條畷南小学校1年生2クラス、忍ケ丘小学校1年生3クラス、岡部小学校1年生3クラス、くすのき小学校1年生2クラス、大阪府立交野支援学校四條畷校3クラス ・食育授業：田原小学校2クラス、四條畷南小学校6クラス、忍ケ丘小学校15クラス		
指標	朝食を毎日食べていると答えた児童生徒の割合	出典	全国学力・学習状況調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績		小90.7 中89.4	小91.1 中89.6	小89.9 中88.7	小89.6 中92.0
全国平均		小94.9 中92.8	小94.4 中91.9	小93.9 中91.2	小93.7 中91.2

3

事業名	学校給食の試食会（学校給食センター）	施策の方向性番号	②
事業概要	学校給食の試食会を開催した。		
活動実績	・保護者に対し、児童生徒の学校生活における給食への理解、身近に感じられる会の実施 ・実施校：田原小学校、四條畷小学校、岡部小学校、くすのき小学校、大阪府立交野支援学校四條畷校		

4

事業名	学校給食における地場産食材の活用（学校給食センター）	施策の方向性番号	③
事業概要	給食を通した地域の味を知る機会を提供した。		
活動実績	・使用実績：米、たまねぎ、青ねぎ、味噌、チンゲン菜、小松菜、かぼちゃ		

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	やや課題あり	2
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	4	B

◇振返りと評価の説明

【学校教育の分野】

分析結果をもとに指導助言し各校で独自の取組が推進されたので、創意工夫は前進とした。同様に小5女子中2男子においても体力づくりアクションプランに基づいた活動を推進していきたい。

全小学校において、学校給食センターの見学を実施できた。見学した児童からは、「たくさんの人が関わって、給食が作られていることが分かった」、「苦手な食材も挑戦したい」等の感想が聞かれた。実際に調理時間に来てもらい、においも含めて感じてもらえるように工夫したので創意工夫は前進とした。

また、食育授業は、小学校3校で実施し、小学生向けにバランスの良い食生活の大切さについて指導した。実施したクラスでは給食の残食が減少するなどの効果が見られ、先進性を前進とした。

【学校給食の分野】

希望される保護者等を対象に給食試食会を実施し、バランスの取れた学校給食を試食していただき、同時に食育についても保護者の理解は深まった。 児童生徒には、地産地消の観点から地場産の食材を給食で提供しており、献立表にも記載することで、児童生徒の食育を推進した。

●総括●

食に関する評価は、普及活動を続けていることから概ね順調といえる一方で、年々、運動が苦手な児童生徒数が増加傾向にあるため、全体評価をやや課題ありとした。

◇今後の課題や方針

今後も子どもたちが保健や体育等の授業を意欲的に受けることができるよう、工夫した学びの場を設定する等、授業改善を指導・助言していく。

地場産食材の活用については、物価高騰や不作の影響を受けて、価格が上がり、また、納品量も減っているが、使用量を維持できるように、関係部署と連携し、交渉していく。また、児童生徒には地場産の食材についてだけでなく、食材の生産者についても関心が持てるようにしていく。

基本方針	2	個を認め、寄り添い、活かす教育の推進

施策	ライフステージに応じた継続的な支援の充実

◇施策の方向性

①すべての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、多様な学習活動の実態を踏まえ、個の状況に応じた必要な支援を行います。
②スムーズな就学や進学、個に応じた支援の充実、ユニバーサルデザインによる授業や集団づくりに努めます。
③ひきこもり等にある子ども、若者への支援として、関係機関、団体との協働により、一義的な相談窓口の充実と、これらが連携した取組とともに、民生児童委員、地区福祉委員会やコミュニティ・ソーシャル・ワーカーによる気軽に相談できる環境づくり、居場所づくりに努めます。
④教育支援センター、子育て総合支援センター、児童発達支援センター及び医療機関等と連携し、心理、医療、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門的な知見を得ながら、不登校児童生徒等への適切な支援を行います。

◇分野別計画等

市立小中学校におけるICT利活用計画/ 識字施策推進指針/ 第3次識字基本計画/ 子ども・若者育成支援行動計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	支援教育関係事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
事業概要	支援教育リーディングチームによる巡回相談、学校介助員・学校支援員配置、教育支援委員会を設置及び開催した。		
活動実績	・通級指導教室担当教職員を中心として構成される支援教育リーディングチームの就学前施設への巡回相談 ・早期支援のための実態把握と円滑な就学 ・就学相談やそれに係る各小学校での学校見学会 ・保護者へ学びの場について説明　教育支援委員会を開催（年間3回）　就学前施設や福祉部局との連携		

◆就学相談実施後、小学校に就学前の子どもの様子を引き継いだ人数（つながりシートを小学校に引き継いだ件数）　（人）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	75	58	68	72	80

2

事業名	教育支援ルーム「フリールームなわて」における不登校児童生徒への支援（教育支援センター）	施策の方向性番号	④
事業概要	四條畷市教育支援ルームとして、不登校児童生徒の支援を行った。		
活動実績	・学校と連携した不登校児童生徒支援を行い、令和6年度は17人の児童生徒が入室 ・教育相談員の学校訪問、SC・SSW（※）による不登校児童生徒への支援を充実させた結果、令和6年度は不登校児童生徒が減少及び指標が改善 ※SC：スクールカウンセラー（児童生徒、保護者、教職員からの心理的な問題や悩みに対する心理専門家） ※SSW：スクールソーシャルワーカー（児童生徒が直面する家庭、生活、社会的な課題に対して支援する専門家）		

◆不登校児童生徒のうち学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けた人数

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	53人 115人中	71人 134人中	78人 169人中	88人 175人中	139人 144人中

3

事業名	ひきこもり相談（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	③
事業概要	中学校卒業後～おおむね39歳までのひきこもりにある本人及びその家族の悩みを聞き、適切な支援につなげた。		
活動実績	・ひきこもりにある本人およびその家族からの相談件数　延べ128件 （うち、医療機関への受診につなぐ2件、高校不登校解消1件）		

◆臨床心理士に対するひきこもりの相談件数　（件）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	115	16	112	124	128

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

ライフステージに応じた継続的な支援の充実に向けて、既存の取組の改善と支援が必要である本人及び家族等の支援体制の充実に注力した。
【学校教育の分野】
支援教育では、就学前の支援内容や保護者ニーズ、子どもの教育的ニーズ等、それぞれを小学校に引き継ぐためのつながりシートを活用した。就学までのスケジュールや学校見学会の持ち方については、学校だけでなく、教育支援委員会等で児童発達支援センターや保健センターなど関係機関とも共有することで、保護者との相談体制の充実をしたことから、創意工夫を前進とした。
不登校児童生徒への支援については、フリールームの指導員が各校訪問を充実して専門的な相談、指導を受けていない児童生徒が減少したことは先進的な取組であることから、先進性は前進とした。
【青少年育成の分野】
毎週水曜日の相談をほぼ固定で開催でき、また申込みを電子フォームでできるようになったため、相談の入口は広くできた。また、他機関との連携、特に就労支援と密に連携を取ることができた。
●総括●
支援の充実が各方向性で図られたことから全体評価は概ね順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◇今後の課題や方針

複雑化する相談者の背景や求められることに応じるため、より多くの機関と連携する必要がある。そのため、庁内のみならず、外部とも顔合わせができる機会が必要である。そのため、令和7年度はひきこもり等検討委員会及びひきこもり等地域支援ネットワークを開催し、各機関と情報交換しながら、気軽に相談できる関係性を築いていく。

基本方針	2	個を認め、寄り添い、活かす教育の推進

施策	多様なニーズに即した教育の提供

◇施策の方向性

①すべての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、多様な学習活動の実態を踏まえ、個の状況に応じた必要な支援を行います。
②スムーズな就学や進学、個に応じた支援の充実、ユニバーサルデザインによる授業や集団づくりに努めます。
③さまざまな立場にある子どもたちが、互いを認め合い、ともに学び、ともに育つ人権教育の充実を図ります。
④日本語指導教室の設置、自立支援通訳者の配置等を通じて、外国にルーツがある児童生徒への個別支援に対応できる体制を整えます。
⑤だれもが地域社会の一員として情報を正しく享受できるよう、にほんご教室等の学びの場の提供や民間識字教室の運営支援、情報発信におけるやさしい日本語やピクトグラム（絵文字）の取組などの識字施策を推進します。

◇分野別計画等

市立小中学校におけるICT利活用計画/ 識字施策推進指針/ 第3次識字基本計画/ 子ども・若者育成支援行動計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	課題別の人権教育に関する事務（学校教育課）	施策の方向性番号	④
事業概要	外国にルーツのある日本語指導が必要な児童生徒への支援を行った。		
活動実績	・自立支援通訳者の派遣		

◆自立支援通訳者の派遣時間　（時間）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	146	146	237	371	693

2

事業名	支援教育関係事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
事業概要	学校介助員・学校支援員配置、支援教育リーディングチームによる巡回相談を行った。		
活動実績	・各小中学校に学校介助員・看護師、学校支援員を配置し、支援体制を整備 ・市支援教育リーディングチームを組織し、各小中学校の巡回相談を行い、支援教育の視点から環境整備や授業改善について管理職や教職員対象にコンサルテーションや研修を実施		
指標	「支援教育の視点から、指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」という問いに対して肯定的に答えた教職員の割合	出典	教職員アンケート

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	小:95.2 中:93.0	小:93.7 中:94.4	小:93.7 中:92.5	小:97.2 中:95.1	小:96.8 中:93.7

3	事業名	識字・日本語教室の開催（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	四條畷市にほんご教室では非識字者や外国にルーツのある人などに、日本語のよみ・かき・ことばができずに日常生活に支障をきたしている人を対象に学習支援や学習外イベントなどを行った。		
	活動実績	・非識字者や外国にルーツがある人などを対象とした学習支援の実施 ※木曜：午前10時30分～12時、金曜：午後6時30分～8時（金曜はキッズ教室あり） ・日本文化体験や交流、情報提供などの学習外イベントの開催、相談対応を実施 ・身体的などに障がいのある人を対象とした民設民営の識字教室への活動補助（学習希望者がおらず教室は休止）		

【四條畷市にほんご教室】

	R2	R3	R4	R5	R6
開催回数（回）	42	55	90	85	88
延べ学習者数（人）	166	267	500	611	690
学習登録者数（人）	26	18	39	55	51
浴衣de盆踊り参加者数（人）	—	—	—	24	27
国際交流わくわくパーティー参加者数	—	—	—	50	59
お花見体験参加者数（人）	—	—	—	35	32
北河内識字日本語交流会参加者数（人）	—	—	32	13	8

【みんなきてや学級】

	R2	R3	R4	R5	R6
開催回数（回）	21	13	—	—	—
延べ学習者数（人）	21	13	—	—	—

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

【学校教育の分野】

自立支援事業では、日本語の習得が十分でない児童生徒に対し通訳者を派遣することで、児童生徒は安心感をもって学習に臨むことができ、進路に関することや要提出の書類など、通訳者を通じて、正しい情報を確実に直接保護者に伝えることができた。令和6年度は外国から編入する児童生徒の増加に伴い、自立支援通訳者による日本語指導時間も大幅に増加した。

支援教育関係事務では、学校介助員や学校支援員を配置することで、多様な教育ニーズに応える学校の環境整備ができ、教育活動における学校介助員、学校支援員の児童生徒への合理的配慮や見守りについては、保護者ニーズも高いことに加え、教職員の負担軽減にもつながった。

【文化の分野】

にほんご教室では毎週の日本語学習のほか、さまざまな日本文化体験イベントを開催することで学習者同士のつながりを育むことができた。また、みんなきてや学級については休止中ではあるものの、新たな学習希望者が現れた際には速やかに開講する方針を主催者と共有した。以上のことから、事業を着実に実施したことから、全体評価を順調と評価した。その他、令和6年度には「日本語教室ボランティア養成講座（初級）」に加え、「識字・日本語学習活動支援　市町村域を越えた取組プラン」において、大阪府の協力をいただきながら、北河内地区のにほんご教室学習指導者を対象に「日本語教室ボランティア養成講座（中級）」を開催し、新たな学習支援者を確保することもできた。

●総括●

多様なニーズに応えられる支援体制を整えることができたことから、全体評価は概ね順調とし、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◇今後の課題や方針

【学校教育の分野】

日本語指導を必要とする児童生徒と日本語を母語とする児童生徒が、互いの文化を正しく理解し、お互いの文化を尊重しあえる関係をより一層構築していきたい。また、市内の日本語指導を要する児童生徒同士（時には家族も含め）が交流する場を設け、情報共有等ができるようにしていきたい。

学校介助員、学校支援員の人材育成に係る研修の機会の確保やユニバーサルデザインによる授業や集団づくり、特別の教育課程や自立活動の内容については、教職員の研修を引き続き重ねていく必要がある。

【文化の分野】

にほんご教室では学習支援者の高齢化が進んでいることから、日本語教室ボランティア養成講座を継続して実施することにより新たな学習支援者の確保に努める。また、にほんご教室の各種イベントについては、外国にルーツのある住民に日本の文化に触れる機会を提供するとともに、地域とのつながりを作る契機となることから、継続実施する。

基本方針	3	地域の教育コミュニティづくりへの支援

施策	家庭・地域・学校の連携、協働の推進

◇施策の方向性

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域とともにある学校づくりに取り組みます。
②学校の部活動について、地域との連携体制を構築します。
③ふれあい教室の安定運営と多様な受け皿の確保に向けて、ふれあい教室と放課後子ども教室の連携に取り組みます。
④子育て支援と連携のもと、家庭の教育力向上に向けた取組を推進します。
⑤野外活動や地域活動に加え、各種行事を通じ、豊かな人間性を育み、社会で生きる力と創造力を身につける取組を行います。

◇分野別計画等

第2次公民館振興計画/ 子ども・若者育成支援行動計画/ 第2次スポーツ推進計画/ 第3次文化芸術振興計画
第2期子ども・子育て支援事業計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	地域とともにある学校づくり推進事務（学校教育課）	施策の方向性番号	①
事業概要	中学校区学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりの推進及び学校教育目標達成に資する学校支援活動の充実を進めた。		
活動実績	・学校運営協議会においてめざす子ども像について熟議し、地域とともにある学校づくりを推進 ・学校運営協議会が主体的に関わる学校支援活動の実施		
指標	「地域の見守りがしっかりしている」という問いに対して肯定的に答えた市民の割合	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	38.8	39.3	36.5	35.5	36.5

2

事業名	部活動指導員に関する事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
事業概要	各中学校の運動部・文化部それぞれに部活動指導員を配置した。		
活動実績	・教員の働き方改革推進のため、全中学校に部活動指導員を配置 ・部活動に係る教員の負担軽減及び専門的な指導を充実 ・令和6年度は野球部2人、バレーボール部1人、卓球部1人、剣道部1人、吹奏楽部1人を配置		

◆部活動指導員の年間指導時数　（時間）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	354	535	998	1,450	2,050

3

事業名	なわてふれあい教室と放課後子ども教室連携事業（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	③
事業概要	なわてふれあい教室に通う児童が、放課後子ども教室に参加できるように連携を図った。		
活動実績	・各月の放課後子ども教室の予定表を毎月ふれあい教室に提供し、子ども教室開催日には、参加する児童がスムーズに移動できるよう、ふれあい教室で声掛けを実施 ・令和6年度から岡部小学校において校庭開放事業（※）の一つとして試行実施している「自由遊び」時には、ふれあい教室の児童も同時に遊ぶなど両教室が連携し実施 ※「校庭開放事業」：地域にボール遊びができる公園がない岡部小学校において、公園と同様に遊べる場所として校庭を開放する事業を試行実施している。放課後子ども教室の自由遊びのほか、PTAの取組（okabeフェス）及び校庭開放（おか公タイム）の3種がある		

4	事業名	市立野外活動センターでのイベントの開催（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	市立野外活動センター指定管理者が各種イベントを企画・実行した。		
	活動実績	・子どもキャンプや親子事業、天体観望会、自然と遊びの教室などを実施		

	R2	R3	R4	R5	R6
イベント数（種類）	30	32	35	34	25
開催回数（回）	51	64	73	68	51
延べ参加者数（人）	1,129	1,472	1,994	1,768	1,440

5	事業名	二十歳の集いの実施（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	当該年度に二十歳となる市民等を対象に、青少年指導員の協力を得て、式典とアトラクションの2部構成を実施した。		
	活動実績	・令和7年1月13日（月祝）成人の日に、令和7年二十歳の集いを開催 ・実行委員8人が中心となり企画した式典とアトラクションの2部構成で実施		

項目	R2	R3	R4	R5	R6
対象者（人）	716	694	634	634	639
参加者数（人）	485	523	479	467	467
参加率（%）	68	75	76	74	73

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

家庭・地域・学校の連携、協働の推進に向け、連絡会等を通した良好な関係づくり及び持続可能な組織体制の構築に取り組んだ。

【学校教育の分野】

地域とともにある学校づくり推進事務では、令和4年度に全小中学校区で学校運営協議会が設置され、各協議会で研修や先進事例から学び、組織体制も年々積み重ねが図られている。機能面での学校運営方針の承認、評価等も行いながら、子どもを理解するための研修会への参加や地域住民参加の清掃活動、授業支援、行事協力等、学校運営協議会が主体的に関わる学校支援活動も実施できた。部活動指導員の配置では、生徒の安全面であったり、専門的な指導ができたり、学校の働き方改革も少しずつではあるが進めることができた。

【青少年育成の分野】

放課後子ども教室においては、子どもたちを見守り様々なことを指導する安全管理員の登録が増えてきており、また、1つの学校で実施していた事業を他校でも実施するなど、学校を超えたつながりができた。

●総括●

家庭・地域・学校と連携し、協働的な取組が実施できたことから、全体評価は概ね順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◇今後の課題や方針

学校運営協議会委員の研修や新規地域ボランティアの活用等については、限られた地域の資源であるため、学校教育所管課だけでなく、社会教育部局と連携を今以上に密にしていくことで、さらなる充実が図られると考える。

各事業の協力者の募集を電子フォームで実施するなど、応募してもらいやすい環境を整備しているが、協力者数が伸びないことが多い。安定的に協力者を募るために、広報の方法や募集内容などを見直す必要がある。特に部活動では、今後、地域連携から地域展開への移行をめざして協力団体の発掘が課題となってくる。

基本方針	4	豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援

施策	生涯を通じた学習活動の推進

◇施策の方向性

①ライフステージに応じた学びの場を提供するため、大学等との連携をはじめ、多様化、高度化する学習ニーズに対応した生涯学習を推進します。
②自ら学んだ知識や経験など、学びの成果を地域やまちづくりに生かすことができるよう取り組みます。
③子どもの読書習慣の定着に向け、子どもと本をつなぐ取組の強化に努めるとともに、保護者に向けて、読書の重要性についての発信を強化します。
④図書館資料について、分野及び種類ともに幅広い収集、整備に努め、多様化する読書傾向や課題への対応を図り、生涯にわたる学びを支える拠点として、あらゆる年代の読書活動を推進します。

◇分野別計画等

第2次スポーツ推進計画/ 第3次文化芸術振興計画/ 第2次公民館振興計画/ 第4次子ども読書活動推進計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	畷歩こう会、畷歩こう大会の開催（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	①
事業概要	自然と触れ合いながら健康増進と参加者相互の交流を図った。		
活動実績	・毎月第2日曜日（10月は第3日曜日）に四條畷神社から飯盛山頂までのコースで実施 ・令和6年11月10日開催の畷歩こう大会では、四條畷神社下広場で参加回数に応じて認定証や記念盾等を82人に交付 ・特別企画として、国史跡飯盛城跡現地案内を実施（文化財課職員が発掘調査の成果をもとに飯盛城跡を案内） ・令和6年度は雨天のため、12回のうち3回中止		

◆畷歩こう会、畷歩こう大会の延べ参加者数　（人）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	431	510	1,091	876	827

2

事業名	歴史民俗資料館自主事業の実施（文化財課）	施策の方向性番号	①
事業概要	市内の歴史遺産に関する生涯学習活動の学びの場として、各種事業を実施した。		
活動実績	・兵庫・大阪・京都の古墳を散策する「歩いて学ぶ考古学講座」を年10回実施 ・むかしのくらし及び地域の歴史に関する「小学校第三学年と第六学年の校外学習」を実施 ・大昔のすごろく遊びなどの「夏休みイベント」を実施 ・学芸員資格取得のための「博物館実習」を大学生に実施		

◆各種事業の参加人数

項目	R2	R3	R4	R5	R6
歩いて学ぶ考古学講座（人）	—	—	304	296	280
校外学習 小学3年生（校）	—	—	6	6	6
校外学習 小学6年生（校）	—	—	1	1	1
夏休みイベント（人）	122	—	61	106	71
博物館実習（人）	30	36	60	78	72

指標	歴史を感じる場所があると答えた市民の割合（肯定的割合）	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	70.1	70.6	72.0	66.2	71.3

3

事業名	市民総合体育館自主事業の実施（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	①
事業概要	市民がスポーツを始めるきっかけづくりなど、スポーツに接しやすい環境を整えるべく、平日の日中を中心として全年代を対象としたスポーツ教室を実施した。		

活動実績

・市民がスポーツに接しやすい環境を整えるべく、新規講座を開講するなどスポーツの楽しさを市民に伝え、市民の健康維持、増進を図るため様々な取組を実施

◆主な自主事業：バドミントン、体操、ヨガ、卓球、サッカー　等

項目	R2	R3	R4	R5	R6
講座数	25	44	45	53	52

指標　スポーツ活動やイベントが充実していると答えた市民の割合（肯定的割合）　出典　市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	16.3	18.6	22.5

4

事業名	大学等と連携した各種講座の開催（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	①
事業概要	市民教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すべく、様々な講座やイベントを実施した。		

活動実績

・大学等と連携した各種講座やイベントの実施

◆大学等と連携した講座の実施状況

R2	R3	R4	R5	R6
「盤双六の歴史・平安貴族の遊び体験」（大阪電気通信大学）9人参加	中国語で読む漢詩講座（大阪電気通信大学）16人参加	中国語で読む漢詩講座（大阪電気通信大学）12人参加	中国語で読む漢詩講座（大阪電気通信大学）19人参加	中国語で読む漢詩講座（大阪電気通信大学）15人参加
ゼロからはじめるスマホ活用講座（ソフトバンク株式会社）27人参加	盤双六体験コーナーを運営協力（大阪電気通信大学）45人参加	夏休みキッズランド「盤双六あそび」（大阪電気通信大学）14人参加	夏休みキッズランド「盤双六あそび」（大阪電気通信大学）11人参加	夏休みキッズランド「盤双六あそび」（大阪電気通信大学）12人参加
		スマートフォンの使い方教室（奈良先端科学技術大学院大学）延べ235人参加	スマートフォンの使い方教室（奈良先端科学技術大学院大学）延べ411人参加	スマホ教室（奈良先端科学技術大学院大学）延べ323人参加

指標1　市民講座・文化サークルなどが充実していると答えた市民の割合（肯定的割合）　出典　市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	31.8	29.4	24.2	27.2	28.1
目標（※）					R8 30.9

指標2　スポーツ、文化、レクリエーション、ボランティアなどの生涯学習活動を楽しんでいると答えた市民の割合（肯定的割合）　出典　市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	22.1	21.1	24.7

5	事業名	スマホ教室、パソコン基礎講習会の開催及びポケットWi-Fiの貸出（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	ライフスタイルや価値観の多様化に加え、デジタルデバイド（※）の解消に向け、各種講習会及びポケットWi-Fiの貸出を実施し、情報化の環境整備を行った。 ※デジタルデバイド：インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差		
	活動実績	・パソコン基礎講習会の開催 ・奈良先端科学技術大学院大学のスマートフォンアプリを用いたスマホ教室の開催 ・ポケットWi-Fiの貸出を実施		

【パソコン基礎講習会】

	R2	R3	R4	R5	R6
入門・応用講習会受講者数（人）	19	23	25		
ワード・エクセル講習受講者数（人）	23	15			
年賀状講習受講者数（人）	13	8	9		
基礎講習会受講者数（人）				13	6

【スマホ教室】

	R4	R5	R6
開催回数（回）	35	72	44
延べ受講者数（人）	235	411	323

※R4は1回/日、R5は3回/日、R6は2回/日それぞれ開催

【ポケットWi-Fi貸出回数】

	R3	R4	R5	R6
貸出回数（回）	76	196	335	342

指標	これまで身につけた知識、技術、経験を仕事や地域、社会での活動に生かしていると答えた市民の割合（肯定的割合）	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績			30.0	33.2	32.8

6	事業名	市民総合センター及び教育文化センターにおける地域人材と連携した自主事業の実施（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	②
	事業概要	文化芸術分野において活動しているさまざまな地域の方々と連携し、各種事業を実施した。		
	活動実績	・四條畷市の魅力発見と未来を担う人材育成及び幅広い市民による施設使用の促進を目的にした各種事業の実施		

◆地域人材と連携した主な自主事業の展開状況

市民総合センター

	R4	R5	R6
なわて音楽プロジェクト（回）	7	23	39※
森のオーケストラ（回）	1	1	1
日本伝統芸能・夏祭（回）		1	1
サマーフェスティバル（回）		1	1

※音楽セミナー9回、サロンコンサート12回、キッズコンサート1回、特別コンサート2回、合唱団コンサート1回、指揮法アカデミー8回、なわての伝説6回

教育文化センター

	R4	R5	R6
子ども文化体験教室（回）	4	15	23※

※番外編の夏祭り及び春祭り各1回を含む

指標	市民講座・文化サークルなどが充実していると答えた市民の割合（肯定的割合）	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	31.8	29.4	24.2	27.2	28.1
目標（※）					R8 30.9

7	事業名	ブックスタート関係事務（図書館）	施策の方向性番号	③
	事業概要	市の乳児4か月健診時を活用し、絵本のプレゼントを行い、小さい頃から絵本と親しむことの魅力をPRし、子どもの読書活動の推進につなげた。		
	活動実績	・毎月第1木曜日に実施し、年間12回開催		

◆絵本プレゼント冊数　（冊）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	374	326	337	343	320

8	事業名	図書館資料関係事務（図書館）	施策の方向性番号	④
	事業概要	蔵書を適切に構築するため、購入や寄贈の受入れなどの方法により図書の収集を継続的に行うとともに、経年や傷み等の理由により役割を終えた図書の除籍等を行うことにより、書架に並ぶ図書の管理・更新を行った。また、各種コーナーを設けて、本選びのサポートを行った。		
	活動実績	・予算確保のもと図書の購入を継続的に実施。併せて市民から寄贈を受けた図書の受入れも実施		

◆図書受入れ冊数　（冊）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	7,759	7,697	7,212	7,639	6,858

指標	貸出利用者延べ人数	出典	市の実績

（人）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	48,722	55,110	59,072	63,027	60,837

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

【スポーツの分野】
　暖歩こう会については、雨天による開催回数の変動はあるものの、参加者数は緩やかに減少傾向にあるが、市民の健康を維持、増進するべく各種事業を実施した。
【文化財の分野】
　参加者数はやや減少傾向にあるが、市内の歴史遺産に関する生涯学習活動を実施した。
【図書の分野】
　ブックスタート関係事務に関し、予定どおりの行事数を確実に実施するとともに、図書館資料関係事務についても予算に応じた購入を毎週継続して行った。加えて、子どもと保護者が一緒に楽しめる行事実施後、希望者の子どもを預かり、保護者の本選びや読書の時間を確保するサポートを行う取組や保護者が集まる場所に出向いて読み聞かせのPR、また高齢者への図書配達サービスなどを行った。なお、図書の受入れ冊数と利用者延べ人数についてはともに減少した。
【文化の分野】
　大学等との連携により、予定どおりの講座を開催できた。また、地域人材と連携した主な自主事業の展開状況では、前年度よりも更に事業数を増やし、市民の文化振興に寄与した。
●総括●
　全体的な傾向として参加者数が減少傾向であるものの、すべての分野で予定していた事業を滞りなく実施できたため、全体評価を概ね順調と評価した。図書の分野では、昨年度から実施している保護者の本選びや読書の時間を確保するサポートを行う取組は先進的施策であるため前進と評価し、文化の分野では地域人材と連携した事業展開を大きく推進できたため、創意工夫を前進とした。

◇今後の課題や方針

【スポーツの分野】

昨年度課題として挙げていた、暖歩こう会、暖歩こう大会の新たなボランティアスタッフの獲得について、参加者からの応募もあり、1人増員することができた。しかしながら、高齢化等の課題があることから、引き続きボランティアスタッフに加えて暖歩こう会の新たな参加者の募集方法等を検討していく。

【文化財の分野】

歴史民俗資料館の自主事業については、好評を得ている事業を継続するとともに文化財を活用した新たな企画を考案していく。また、小学校の校外学習については、資料館へ来館できない学校への出前講座も希望により展開していく。

【図書の分野】

子どもの読書活動の推進は、小さい頃から本に親しむことが効果的であることから、子育て世代、特に乳幼児の保護者へのPRに努めているが、来館の時間がとれなかったり、来館してもゆっくりできない保護者へも効果的なPRを考える必要がある。また、コロナ禍後は回復傾向にあった利用者延べ人数が令和6年度は減少した。大きな課題であるので要因を究明する必要がある。

【文化の分野】

パソコン基礎講習会は、令和5年度から包括的に基礎講座として開催しているが、近年のスマートフォンやタブレット端末の普及に伴い、パソコン自体へのニーズが減ってきていると考えられるため、以前の結果を踏まえ、今後のあり方を検討する必要性がある。

基本方針	4	豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援

施策	生涯を豊かにする文化芸術・スポーツ活動の充実

◇施策の方向性

①人生をより豊かに過ごすため、いつでも、どこでも、だれもがライフステージ、ライフスタイルにあわせて主体的に学び、スポーツ、レクリエーション活動等に参加ができるよう、関係団体との連携した推進体制を充実させます。
②文化芸術活動の成果の発表や公開を通して、市民が文化芸術に触れ、楽しめる機会の充実を図ります。
③本市のさまざまな魅力あふれる伝統文化や文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠くことのできないものであり、郷土の歴史、文化を継承し、郷土への愛着を育むよう、四條畷の宝を市民に広く周知していくための体制を充実します。

◇分野別計画等

第2次スポーツ推進計画/ 第3次文化芸術振興計画/ 第2次公民館振興計画/ 史跡飯盛城跡保存活用計画

▼令和6年度の取組実績▼

	事業名	スポーツフェスティバル2024（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	市民の健康増進と体力増強を図るため、スポーツイベントを開催した。		
1	活動実績	・スポーツフェスティバル2024周知のため、イオンモール四條畷（風のコート）においてプレイベントを実施 ●プレイベント：レクリエーションスポーツ、大阪・関西万博啓発ブース ・スポーツフェスティバル2024により参加者相互の親睦を深めることを趣旨に、インクルーシブ（※）・競技スポーツ・生涯スポーツ・健康チェック、著名なスポーツ選手による講演会を実施 ※インクルーシブ…包括的（年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、誰でも参加していただける意味を含んでいる。） ・スポーツフェスティバル2024実施種目 ●午前：各種体験（トランポリン、バドミントン、バスケットボール、卓球、剣道、レクリエーションスポーツ（屋内）、軟式野球～めざせ！畷の大谷！～、公式ワナゲ、てづくりおもちゃであそぼう！、グラウンド・ゴルフ～めざせ！ホールインワン～）、能見篤史氏特別講演会、InBody測定 ●午後：各種体験（バドミントン、バスケットボール、スポーツウエルネス吹矢、グラウンド・ゴルフ～めざせ！ホールインワン～、軟式野球～めざせ！畷の大谷！～、レクリエーションスポーツ（屋内）、レクリエーションスポーツ（屋外）、てづくりおもちゃであそぼう！、けん玉）、健康チェック、InBody測定、畷記録に挑戦！ドッチビー遠投		
	指標	スポーツ、文化、レクリエーション、ボランティアなどの生涯学習活動を楽しんでいると答えた市民の割合（肯定的割合）	出典	市民意識調査

◆プレイベント参加者数 （人）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績					1,392

◆スポーツフェスティバル参加者数 （人）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	1,351	2,835	2,319

※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止
令和4年度からは市民体育祭をスポーツフェスティバルとして名称を変更し開催

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	22	21	25

2

事業名	レクリエーションスポーツ体験事業の実施（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	①
事業概要	ニュースポーツの普及事業を実施した。		

活動実績

・原則、毎月第1・3土曜日を中心に実施
・スポーツ推進委員が中心となり、レクリエーションスポーツ体験事業として実施

	R2	R3	R4	R5	R6
開催回数（回）	15	12	20	20	21
延べ参加者数（人）	104	43	122	256	189

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部開催を中止した

3

事業名	市民文化祭の実施（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	①・②
事業概要	市民の文化芸術活動を発表する場として市民文化祭を開催した。		

活動実績

・3日間にわたり、舞台出演の部、展示の部、ワークショップの部、模擬・バザーの部を開催
・四條畷市文化協会と連携のもと、地域文化の向上や創作活動の普及、促進の取組

	R2	R3	R4	R5	R6
舞台の部 出演団体数（団体）	21	26	37	42	43
展示の部 出品数（品）	92	89	92	239	336
ワークショップの部 出店団体数（団体）	2	1	4	8	8
模擬・バザーの部 出店団体数（団体）	—	3	6	7	10
来場者数（人）	281	1,260	1,827	2,790	3,087

4

事業名	コーラスフェスティバルの実施（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	①・②
事業概要	合唱のすばらしさを市民に伝え、市民文化の発展に寄与するためコーラスフェスティバルを開催した。		

活動実績

・四條畷市合唱連盟と共催で、前年度の5団体に加え、ゲスト1団体が参加し、計6団体で実施

項目	R2	R3	R4	R5	R6
来場者数（人）	—	—	228	298	335

5

事業名	四條畷市吹奏楽祭の実施（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	①・②
事業概要	市民の音楽に対する関心を深めるとともに、本市の音楽活動の振興と発展及び青少年の健全育成に貢献するため開催した。		

活動実績

・四條畷市吹奏楽協議会との連携のもと開催し、高等学校、大学、社会人の吹奏楽団5団体が共演

項目	R2	R3	R4	R5	R6
来場者数（人）	—	—	—	376	433

6	事業名	スポーツ・文化奨励賞事務（スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	スポーツ及び文化の活動において、特に功績が顕著な個人、団体に対し、奨励賞を授与し表彰することにより、本市の活動の振興、発展を促進した。		
	活動実績	・令和6年度は12月1日に表彰式を行い、個人14人、2団体を表彰		

		R2	R3	R4	R5	R6
スポーツ（体育）	個人（人）	4	6	9	14	10
	団体（団体）	0	1	1	1	1
文化	個人（人）	3	1	4	13	4
	団体（団体）	1	2	3	2	1

7	事業名	史跡飯盛城跡整備基本計画の策定（文化財課）	施策の方向性番号	③
	事業概要	令和5年度に定めた史跡飯盛城跡保存活用計画を踏まえ、史跡飯盛城跡を確実に保存し、未来へ継承するための適切な整備と活用のあり方を具体的に示し、整備の方向性を明らかにした「史跡飯盛城跡整備基本計画」を大東市とともに定めた。		
	活動実績	・史跡飯盛城跡の周知活動として飯盛城跡調査報告会を大東市と実施		

	R2	R3	R4	R5	R6
シンポジウム参加者数（人）	―	121（定員200）	253（定員300）		184（定員500）
連続講座参加者数（人）				30（定員30）	

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	順調	4
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	6	A

◇振返りと評価の説明

【文化財の分野】

当初の計画通り『史跡飯盛城跡整備基本計画』を大東市とともに策定した。活用事業の一環として実施した「飯盛城跡調査報告会」については、他府県からの申込みもあり好評を得た。

【スポーツの分野】

スポーツフェスティバルについては、第50回衆議院議員総選挙の影響もあり、参加者数は減少したが、一日を通して様々な体験ができる内容を実施することができた。

レクリエーションスポーツ体験事業については、幼児から高齢者まで多くの方に参加していただくことができた。

スポーツ・文化奨励賞については、活動の振興、発展をより促進するため、表彰式を実施し、広報誌等で受賞者の周知を行うなど、予定通り進めた。

【文化の分野】

前年度から文化活動がコロナ禍前の状態に戻り、かつての活気を取り戻しつつさらなる活性化に向けて、各種団体が活発に文化活動に取り組まれた。市民文化祭では、展示の部の前年度の躍進に続き、各小学校の放課後子ども教室と連携して製作物の展示を行った。これにより小学生の親子世代の来場者が増加したことで、初日の悪天候にも関わらず前年度より来場者を獲得できた。

●総括●

生涯学習の推進、文化振興に寄与したことから、全体評価としては順調とし、各種取組実績をもとに一定の成果が得られたことを踏まえ、先進性、創意工夫を前進とした。

◇今後の課題や方針
【文化財の分野】 『史跡飯盛城跡整備基本計画』に基づき、史跡の保存整備を行う。また、好評を得ている「飯盛城跡調査報告会」も継続するとともに、様々な方法で周知活動に努めていく。 【スポーツの分野】 スポーツフェスティバルについては、令和5年度より団体からの協力体制を見直し、運営をしているが、同様の団体からの参加が多いため、新たな団体の参画を検討していく必要がある。また、今後さらなる内容の見直し、大阪電気通信大学との連携など、運営体制の強化を図る。 スポーツ・文化奨励賞については、令和5年度より活動の振興、発展をより促進するため、より広く表彰式を周知できるよう検討する。 【文化の分野】 すべての事業において来場者を伸ばすことができたが、四條畷市吹奏楽祭は前年度につづき中学校の参画を得ることができず、中学生有志の参加も募ったものの参加者はいなかった。翌年度以降、吹奏楽祭のあり方を含め、活性化に向けた検討が必要である。

基本方針	5	学びを支える教育環境の整備

施策	安心・安全な施設等の段階的整備

◇施策の方向性

①学校、社会教育施設及び学校給食施設について、施設、設備ごとの老朽化状況等を把握のうえ、優先順位づけを行い、予防保全や長寿命化、ユニバーサルデザインを意識しながら計画的な対応に努めます。
②義務教育学校制度の活用等により、小中一貫教育を推進します。
③教育環境の向上を趣旨とする学校の適正規模、適正配置など、人口動態等を踏まえた学校運営や施設のあり方を検討します。
④公民館など生涯学習活動の拠点となる施設について、ユニバーサルデザインを導入し、新たな学びや出会いが生まれる空間的施設整備を検討します。
⑤新しい生活様式のもと、感染症対策を徹底したうえで児童生徒の学びの継続に向けた取組を進めます。

◇分野別計画等

学校施設整備方針（令和6年12月改訂版）（※学校再編整備計画と統合）/ 個別施設計画【公共施設】/ 学校施設修繕計画/ 第2次スポーツ推進計画/ 第3次文化芸術振興計画/ 学校空調設備整備計画

▼令和6年度の取組実績▼

1	事業名	学校施設整備方針の改訂（教育総務課）	施策の方向性番号	③
	事業概要	学校施設整備方針（令和6年12月改訂版）を策定した。		
	活動実績	・個別施設計画【公共施設】（令和6年12月改訂版）との整合性を図るとともに、各校の整備方針及び更新等の時期を明確にするため、学校施設整備方針（令和6年12月改訂版）を策定 ・単なる建物の物理的な不具合を無くすのではなく、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる時代に即応した教育環境に向上させるべく、長寿命化改修を基本とする ・策定にあたり、教育委員会事務局内において、学校施設あり方検討プロジェクトチームを設置し、合計で5回の会議を開催		
	指標	小学校・中学校などの教育環境が充実していると答えた市民の割合（肯定的割合）	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	36.8	41.2	31.6	34.0	31.6

2	事業名	学校施設整備の実施（教育総務課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	四條畷小学校敷地内における断層及び液状化リスクの調査を実施した。		
	活動実績	・四條畷小学校の最も築年数が経過している棟が築60年を迎え、施設の老朽化が進んでいることから、今後の施設整備の方向性を検討するにあたり、まず学校敷地内の断層及び液状化リスクに係る調査を実施 ・調査結果「断層調査では、学校敷地内に活断層が分布している可能性は極めて低く、液状化リスク調査では、一部の深さで液状化する可能性があるものの、程度はごく軽微」		
3	事業名	学校施設整備における先進事例の調査研究（教育総務課）	施策の方向性番号	③
	事業概要	他市の長寿命化改修における先進事例を調査研究するため、学校視察を実施した。		
	活動実績	◆視察校 ・令和6年5月17日：大東市立住道南小学校 ・令和6年7月5日：泉大津市立条東小学校及び条南小学校 ・令和6年11月11日：木津川市立相楽小学校		
4	事業名	学校給食センター施設・設備等修繕計画に基づく更新工事（学校給食センター）	施策の方向性番号	①
	事業概要	学校給食センター施設・設備等修繕計画（令和4年11月策定（令和6年10月改訂））に基づき、老朽化した厨房機器等の更新を行った。		
	活動実績	学校給食センター施設・設備等修繕計画をもとに、グランドケトル、蒸気回転窯、冷蔵庫・冷凍庫等の厨房機器、小型貫流ボイラー、蒸気配管、エレベーター制御盤等の更新工事、除害施設鉄蓋補修工事、調理場照明、消防設備の修繕工事を行った。		

5	事業名	市民活動センター、市民総合体育館及び屋外体育施設の施設維持・管理 （スポーツ・青少年課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	上記施設の安全・安心、快適な利用を趣旨に、各施設の修繕計画に基づく下記事業を行った。		
	活動実績	【市民活動センター】 旧校舎屋上の一部防水改修工事、消防用設備修繕（連動用感知器取替え、非常用スピーカーの取替え等）他 【市民総合体育館】 メインアリーナ床改修等工事、防火シャッター修繕、外階段漏水修繕、トレーニングルーム雨漏り修繕、空調設備電装系統部品取替修繕、消防用設備修繕（呼水槽　等）他 【市民グラウンド】 防球ネット改修工事、ふれあいの小径樹木伐採、北側法面高木伐採		
	指標	テニスコートや体育館などの運動施設が充実していると答えた市民の割合（肯定的割合）	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	32.9	34.8	29.1	27.3	27.4

6	事業名	市民総合センター及び市立公民館の施設維持・管理（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	上記施設の安全・安心、快適な利用を趣旨に、下記事業を行った。		
	活動実績	【市民総合センター及び公民館】 ホール舞台照明器具球交換、ホール音響機器電源制御ユニット交換、1階男子トイレ洋式化及びトイレ入口扉改修、各階多目的トイレ暖房便座改修など（指定管理者の管理運営委託料で実施）		
	指標	公民館、図書館などの文化施設が充実していると答えた市民の割合（肯定的割合）	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	38.0	38.8	32.4	35.4	35.9

7	事業名	歴史民俗資料館の施設維持・管理（文化財課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	施設の安全・安心、快適な利用を趣旨に、事業を行った。		
	活動実績	・男子トイレ洋便器入替工事（指定管理者の管理運営委託料）を実施		

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

●総括●

各施設の修繕計画等に基づき、予防保全の考え方も含めた設備の更新や老朽化対策等を実施した。なかでも、学校施設においては、各校の整備方針（長寿命化改修を基本）及び更新等の時期を明確に示し改訂を行ったことから、先進性、創意工夫を前進とした。また、各施設において、修繕計画等に基づいた計画的な修繕、更新等を実施し、施設利用者の安全・安心かつ快適な利用に寄与できていることを鑑み、全体評価を概ね順調とした。

◇今後の課題や方針

教育委員会が管理している施設の多くで老朽化が進んでいることから、学校施設については学校施設整備方針に基づき、社会教育施設等については個別施設計画【公共施設】の動向も注視しつつ、本市の財政状況も鑑みながら、引き続き、各施設の修繕計画等に基づいた計画的な老朽化対策を実施する。社会情勢の変化や利用者ニーズの変化、人口動態を踏まえ、施設整備の際には、時代に応じた魅力的な環境整備に努め、計画的な老朽化対策を実施するとともに、施設の整備を行う際には、時代に応じた魅力ある環境整備に努める。

基本方針	5	学びを支える教育環境の整備

施策	持続的で魅力ある学校教育の推進

◇施策の方向性

①通学路等交通安全プログラムに基づき、合同点検を行い、必要な対策について関係各課、機関と連携します。
②命を守る行動ができるよう、防災や交通安全教育の充実に努めます。

◇分野別計画等

通学路等交通安全プログラム/ 登下校防犯プラン

▼令和6年度の取組実績▼

1	事業名	通学路等交通安全プログラム及び小学校安全対策事務（学校教育課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	四條畷市通学路等交通安全プログラムに基づき、関係機関と連携し、児童が安全に通学できるよう継続的に通学路の安全確保、児童の安全確保及び学校の安全管理等、通学路に重点をおいた交通安全対策の推進を図った。		
	活動実績	・小学校等からの要望に基づき、庁内関係部署と関係機関である大阪府枚方土木事務所、国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所北大阪維持出張所、大阪府警察本部四條畷警察署で組織する通学路安全推進会議において、通学路の危険箇所の内容を共有し、ハード面（カーブミラーの設置、グリーンベルトの敷設、注意喚起の看板設置等）、ソフト面（学校における安全指導等）等対応策を検討のうえ、関係部局の役割のもと実施		
	指標	「交通事故や犯罪などが少ない」という問いに対して肯定的に答えた市民の割合	出典	市民意識調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績	57.8	57.5	55.6	53.3	54.4

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

持続可能かつ安全・安心な通学路の整備については、通学路等交通安全プログラムに基づき、関係機関と連携し、通学路の危険箇所について合同点検を実施したことで、通学路の安全な環境を構築することができたことから、全体評価は概ね順調とした。

●総括●

昨年度に引き続き、小中学校の通学路等における危険箇所への要望に対し、即効性のある短期的対策ができた。また、歩道の拡幅（歩行者溜り）や信号機の設置などの道路用地の買収が必要な場合には、費用と時間及び沿線住民の協力が必要となるため長期的対策とする等、より効果的な安全対策を検討・実施できたことから、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◇今後の課題や方針

既存の通学路等において、交通安全の観点から危険と認められる箇所について対策を検討実施しているが、今後、新しく住宅地になった地域への安全対策についての要望も上がってくることが予想される。その際にも、関係機関と連携の上、対応策を考えていきたい。また、今後は児童生徒が災害や事故からだけでなく、様々な状況から自ら命を守るといった観点からの取組を行っていく必要がある。

基本方針	6	学びを支える教育体制の整備

施策	教職員の資質能力の向上

◇施策の方向性

①多様で複雑化した教育ニーズや社会変化への対応など、教員として求められる資質、能力、指導力向上のための、キャリアステージに応じた質の高い研修を行います。
②校内研修等を通じ、教員同士で学び合い、高め合うなか、学校力の向上を図ります。

◇分野別計画等

まなびのプラン/　市立小中学校におけるICT利活用計画

▼令和6年度の取組実績▼

1	事業名	初任者・2年次・5年次・10年経験者研修（教育支援センター）	施策の方向性番号	①
	事業概要	教員の経験年数に応じた市主催研修を実施した。		
	活動実績	初任者研修（授業づくり、特活・総合、人権教育、支援教育、児童生徒理解、地域教材・人材の活用、接遇） 2年次研修（授業づくり、応急手当、社会体験、人権教育） 5年次研修（授業づくり、道徳、人権教育） 10年経験者研修（授業づくり、人権教育、支援教育、児童生徒理解、地域教材・人材の活用） ・接遇研修の新設 ・授業づくり研修において、子ども主体の授業づくり・探究的な学びの視点での授業づくりを意識して実施 ・指導主事、外部講師や専門家の活用、文化財課・保育園・子育て総合支援センターなど関係機関との連携により実施 ・新たな学び（新たな知識や経験など）や学びの深まり（自己の振返りや知識のアップデートなど）をねらいとし、キャリアステージに応じた研修を実施し、法定研修の機会を通して計画的な育成		
	指標	「授業中、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。（1学期調査）」という問いにできたと答えた児童生徒の割合	出典	児童生徒アンケート

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績		小:72.2 中:82.8	小:80.8 中:88.1	小:81.7 中:90.1	小:83.6 中:87.2
目標（※）			小:75.0 中:83.0	小:77.0 中:83.0	小:80.0 中:85.0

2	事業名	校内研究等への指導助言（教育支援センター・学校教育課）	施策の方向性番号	②
	事業概要	各校の校内研究等への指導助言により、ICTを活用した教員の授業力の向上を図った。		
	活動実績	・初任者（2回/年）、2年次（1回/年）、5年次（1回/年）、10年経験者（1回/年）の研究授業に対する指導助言 ・校内研修、研究会等での指導助言		
	指標	「児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピューターや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示していますか」という問いに提示したと答えた教職員の割合	出典	教職員アンケート

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績			小:76.5 中:67.3	小:65.6 中:70.3	小:84.2 中:70.0
目標（※）					

	事業名	指導・研修関係事務（教育支援センター・学校教育課）	施策の方向性番号	①
3	事業概要	教職員の専門的な知識の醸成、市内での組織力・授業力の推進を図った。		
	活動実績	・英語、情報教育、支援、専門家連携等の担当者連絡会の実施 ・ヒアリングによる各校への指導助言 ・指導主事、大学教授、企業、支援学校、大阪府政策アドバイザー、スクールロイヤー、スクールソーシャルワーカースーパーバイザー、保育園長、警察など外部有識者や専門家、関係機関を講師として招へい ・担当者は、連絡会等研修での学びを活かし、各校の授業改善・学力向上の取組推進・生徒指導体制の構築等、組織的・計画的に取組を推進		
	指標	「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか（1学期調査）」という問いに取り組んだと答えた教職員の割合	出典	教職員アンケート

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績		小:96.6 中:88.5	小:96 中:90.1	小:95.3 中:94.1	小:96.4 中:95.6
目標（※）			小:97.0 中:91.0	小:98.0 中:95.0	小:99.0 中:96.0

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◇振返りと評価の説明

●総括●

法定研修を通して、授業づくり、児童生徒理解、人権教育、支援教育、道徳、特別活動、応急手当、社会体験、地域教材・人材の活用等様々な分野について、キャリアステージに応じた資質・能力向上につながる研修を実施できた。先進性としては、令和6年度から接遇研修を新設し、経験年数の少ない教員を対象に接遇について学ぶ機会を設けるなど、先進性を前進した。

創意工夫した点として、講義型の研修会を見直し、より主体的に研修に参加できるよう、ワーキング型の研修会へと内容の見直しを行い、前進とした。各種アンケート結果も高い水準で推移しており、全体評価としては概ね順調とした。

◇今後の課題や方針

教職員アンケートでは、「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」に対して小学校での肯定的回答が減少している。今後、組織力向上のための研修の見直し及び指導助言の質の向上が求められる。四條畷市の教職員の実態に応じた研修のあり方の検討が必要である。

また、「授業中、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、中学校での肯定回答が減少し、課題がみられた。協働的な学びが推進されるよう、引き続き研修内容の改善及び校内研究等への指導助言を改善していく必要がある。

基本方針	6	学びを支える教育体制の整備

施策	持続可能な指導体制の整備

◇施策の方向性

①教員の業務を整理し、多忙化、勤務の長時間化の解消、負担軽減に取り組みます。
②校務のICT化により、業務の負担軽減と教育の質の向上をめざします。
③ICT環境の整備と情報セキュリティの確保に取り組みます。

◇分野別計画等

まなびのプラン/　市立小中学校におけるICT利活用計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	自動採点ソフトの導入による働き方改革事業（教育支援センター）	施策の方向性番号	②
事業概要	中学校でのテスト時における採点業務をデジタル技術を活用して効率化するとともに、成績データの蓄積と活用を通じて学習支援内容を高度化を図った。		
活動実績	・令和6年度から全中学校に導入し、活用を推進 ・初年度から目標を上回る採点業務時間の削減につながり、業務の負担軽減を実現		
指標1	採点業務の削減時間数	出典	なわてDXアクションプラン

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績					47
目標（※）					20

＊令和5年度中学校教員の1人当たりの1回の採点業務時間平均3.8時間からの減少率

指標2	教職員の時間外勤務時間　削減時間数（一人あたりの年平均）	出典	校務支援システム状況調査

（時間）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績		（小）5.8 （中）3.5	（小）79 （中）97	（小）89 （中）100	
目標（※）		（小）72 （中）132	（小）86 （中）158	（小）104 （中）190	

2

事業名	校内教育支援員配置事業（教育支援センター）	施策の方向性番号	①
事業概要	不登校児童生徒の居場所として校内教育支援ルームを教員に代わり運営する人材を配置		
活動実績	・校内教育支援員を市内6校に配置 ・配置校では新規不登校者数が抑制され、市域全体の不登校者数が減少		

3	事業名	Google Workspace for Educationの先行導入事業（教育支援センター）	施策の方向性番号	③
	事業概要	先行導入による運用整備		
	活動実績	・小学校１校、中学校１校に導入し、校務での活用により、職員間でペーパーレスによる情報共有が簡易に実現 ・カレンダー機能やドキュメントの共有機能により、これまで口頭で行ってきた行事及び連絡事項の共有が電子上で共有 ・令和8年度からの全校導入に向け運用面での研究が推進		
	指標	教職員が事務の軽減が図れたと回答した割合	出典	校務支援システム状況調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績					92
目標（※）					50

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	躍進的	2
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	躍進的	2

総合評価	合計点	総合評価
	7	A

◇振返りと評価の説明

●総括●

持続可能な指導体制の整備に向け、自動採点ソフトを導入したことにより業務の負担軽減が図れた。また、校内教育支援員の配置は、先進的な取組であることから先進性は躍進的とした。さらに、小中学校各１校でGoogle Workspace for Educationを導入し、他市へ視察するなど全校実施に向けて創意工夫ができたため、創意工夫も躍進とした。全体評価としては、業務時間の削減が図れたことから概ね順調とした。なお、水泳事業民間委託は全校実施されることになったため、教職員の負担軽減は引き続き続いている。

◇今後の課題や方針

教育DXの観点から、校務のICT化を進め、教員の働き方の改善につなげ、教育の質の向上をめざす。

基本方針	6	学びを支える教育体制の整備

施策	ICT利活用のための基盤整備

◇施策の方向性

①校務のICT化により、業務の負担軽減と教育の質の向上をめざします。
②ICT環境の整備と情報セキュリティの確保に取り組みます。

◇分野別計画等

まなびのプラン/　市立小中学校におけるICT利活用計画

▼令和6年度の取組実績▼

1

事業名	情報教育担当者会（教育支援センター）	施策の方向性番号	①
事業概要	市主催情報教育担当者会を通して、各校のICTの活用促進を図った。		
活動実績	●年間6回担当者会を実施 ・他市視察、研究授業（ICTの効果的な活用、年間2回） ・AI型ドリルの授業での効果的な活用について研究（研究授業1回） ・令和5年度に情報教育担当者会にて作成した「情報活用スキルカリキュラム」について、活用状況を共有		
指標1	「一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（ほぼ毎日）」という問いに「ほぼ毎日」と答えた児童生徒の割合	出典	全国学力・学習状況調査

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績			66	66	66

指標2	「ICT機器を活用することで、進んで（主体的に）学習するようになった。」という問いに答えた児童生徒の割合	出典	児童・生徒・教職員アンケート

（%）

項目	R2	R3	R4	R5	R6
実績		65.9	64.3	62.7	64.2
目標（※）		50.0	55.0	60.0	65.0

2

事業名	市立小中学校ネットワークアセスメント業務委託（教育支援センター）	施策の方向性番号	②
事業概要	現状のネットワークの改善点を洗い出すとともに、次期ネットワークシステムの設計を行う際の基礎資料を作成するため、ネットワークアセスメントを実施した。		
活動実績	・外部への業務委託により、忍ケ丘小学校と田原中学校に対してネットワークアセスメントを実施 ・ネットワークの安全性、安定性、高速性の詳細調査を行い、「ネットワークアセスメント報告書」を作成 ・内部調査として、全小中学校を対象に主にネットワークの高速性について調査を実施し、「ネットワーク調査報告書」を取りまとめ		

3	事業名	GIGA2期 システム企画（教育支援センター）	施策の方向性番号	②
	事業概要	GIGA2期に向けたシステムに関する企画書の作成を行った。		
	活動実績	・全小中学校からヒアリング、アンケートを取り、現行システムの課題を抽出し、「業務分析報告書」を作成 ・外部（NTT西日本）への委託事業によるコンサルティングを活用し、「GIGA2期システム企画書」を作成		

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◇評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組を着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	躍進	2
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組を行っているか （主な取組や評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	6	A

◇振返りと評価の説明

●総括●

校内のネットワークアセスメントの実施は、現時点で国の基準は満たすものの、GIGA2期に向けてより一層の通信環境を再構築するための取組であることから全国的にも先進的であることから先進性を躍進とした。情報教育担当者会にてAI型ドリルの活用について情報交換を行うとともに、校長会での情報共有を密に行うなど、創意工夫した結果、各校使用率の向上につながったことから創意工夫を前進とした。

全体評価としては、ICT利活用のための基盤整備が計画的に進められたことから、概ね順調とした。

◇今後の課題や方針

「ネットワークアセスメント報告書」及び「ネットワーク調査報告書」にとりまとめた課題を改善する。また、GIGA2期のシステム環境及び利活用環境の設計・構築を実施し、児童生徒の学力向上につながる総合的な取組を推進する。

令和6年度実施事業における点検評価総評

外部評価者からの意見・助言等（総評）

施設見学などをはじめ、五感を使った体験学習の機会が設けられるなど、非常に興味深い事業が展開されている。こうした好事例は内部での共有だけにとどまらず、PDCA サイクルをまわして業務改善に結び付けていくことが重要である。

評価基準については、先進性、創意工夫の項目で、どのような取組が加点対象となるのかを明確にし、その加点の根拠を分かりやすく示す工夫が必要である。

成果については、数値実績だけでは十分なフィードバックが行えないものもあるため、例えば、実際に関わっている利用者や教職員の声など、質的な情報を加味して評価に反映させることで、より効果的な改善につながると考える。

大阪常磐会大学 こども教育学部 准教授 中村 哲也

各分野の事業は着実に進展しており、特に多様な工夫を凝らした結果として事業の利用者数が増加している点は大きな成果と評価できる。取組の積み重ねが着実に実績につながっていることが伺える。

課題として、教員の負担軽減にもつながる学校と地域の連携を今後どのように進めるか、また、外国にルーツのある人が増加している状況にどう対応していくかを検討する必要がある。

また、成果指標の選定方法や、どのような指標が適切かを再検討したうえで、分かりやすく示す工夫が必要である。例えば、利用者や関係者の声を掲載することは、有効と考える。

京都女子大学 発達教育学部教育学科 教授 岩槻 知也